博士への旅の舞台裏：
博士課程での教育スキル開発と
未来へのビジョン
Crafting Your Future:
Doctoral Students, Share Your Career
Visions

報告書作成者：沈彧磬・櫻井勇介

教育学習支援センター 教学 IR ワーキンググループ

本調査の概要・紹介

教育学習支援センターの教学 IR ワーキンググループは、2023 年度に以下の事柄について、博士課程後期の学生の能力開発経験を把握する調査を行いました。本報告書では、全体の大まかな回答傾向を報告しています。

■ 調査内容

1. 博士課程で学ぶ理由（16 項目）
2. 将来のキャリアの見通し（2 項目）
3. 学部教育への考え（18 項目）
4. 教育の知識と技能（30 項目）

■ 目的

本調査は、教育学習支援センターが開講する「大学教員養成講座基礎」の内容の検討など、本センターの活動に活用するため実施しました。

■ 対象

本調査は、本学の博士課程後期に在籍している方に協力をお願いしました。

■ 方法

多肢選択式と自由記述式の質問からなり、記述式の設問は英語・日本語どちらでも答えることができます。この調査への協力は任意であり、参加しなくても不利益を被ることはない旨を回答者に伝え実施しました。いただいた回答は調査目的のみに使用し、その結果は本人や言及される個人が特定されない形で報告書や論文として報告します。また、その書誌情報は教育学習支援センターホームページで共有します。

■ 期間

本調査は 2023 年 12 月 1 日から 2024 年 1 月 31 日までオインライン（Microsoft Forms）で実施しました。

■ 回答者数と回答率

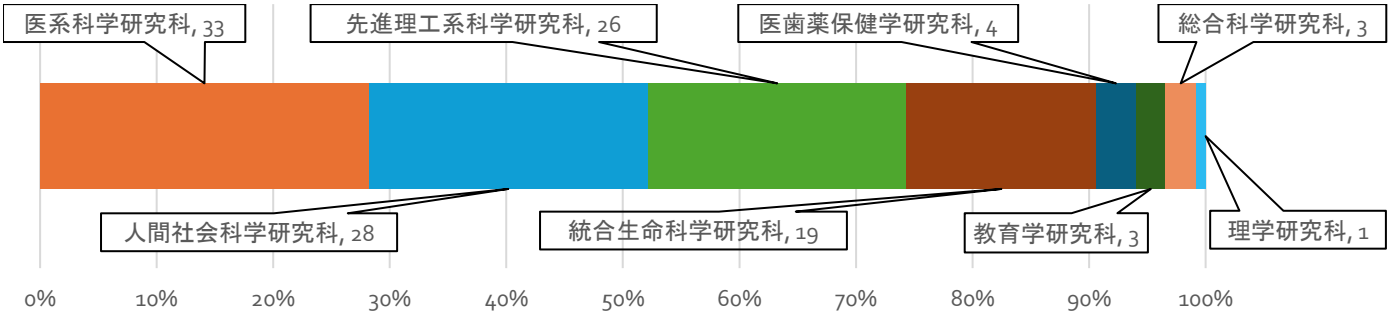
125 名（6.8%）

なお、本調査は本学の「教育・学習データ利活用ポリシー」に基づいて行われ、研究課題「博士課程後期の学生の能力開発経験に関する調査」（研究倫理審査番号 HR-ES-001389 研究代表者：櫻井勇介（教育学習支援センター））の研究活動としても実施されています。
参考「教育・学習データ利活用ポリシー」 https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/post_38.html

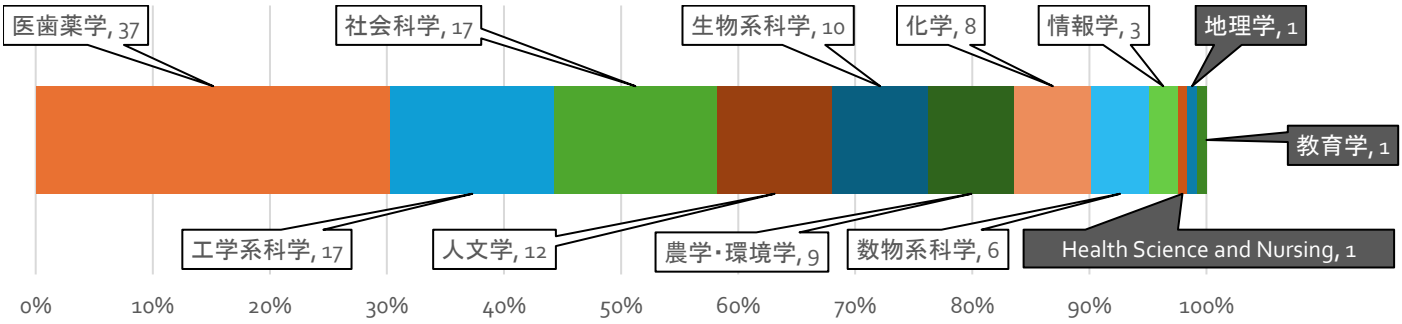
本調査の回答に協力してくださった方から抽選で 50 名の方に Amazon ギフトカード 500 円分を進呈しました。

1. 回答者の属性について

■ 所属する研究科を選択してください

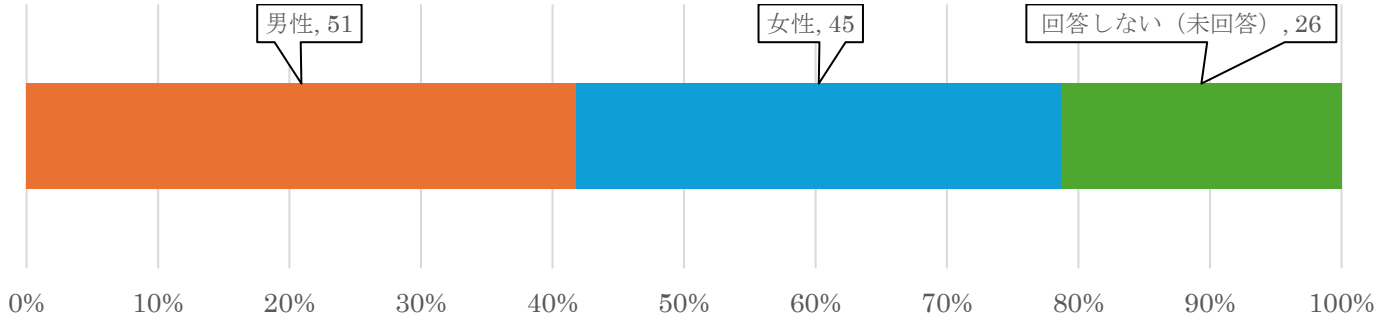


■ 最も近い専門分野を選択してください

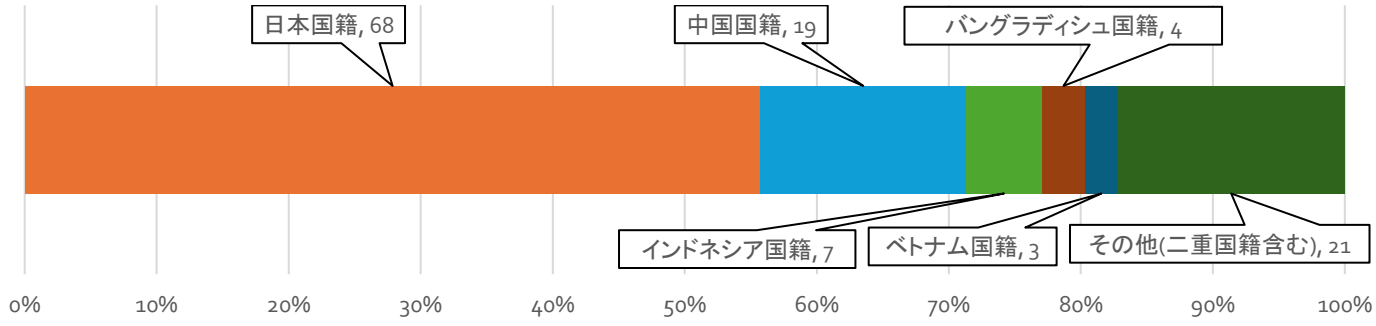


*回答者の自由記述回答（地理学・Health Science and Nursing・教育学）もそのまま含めてあります。

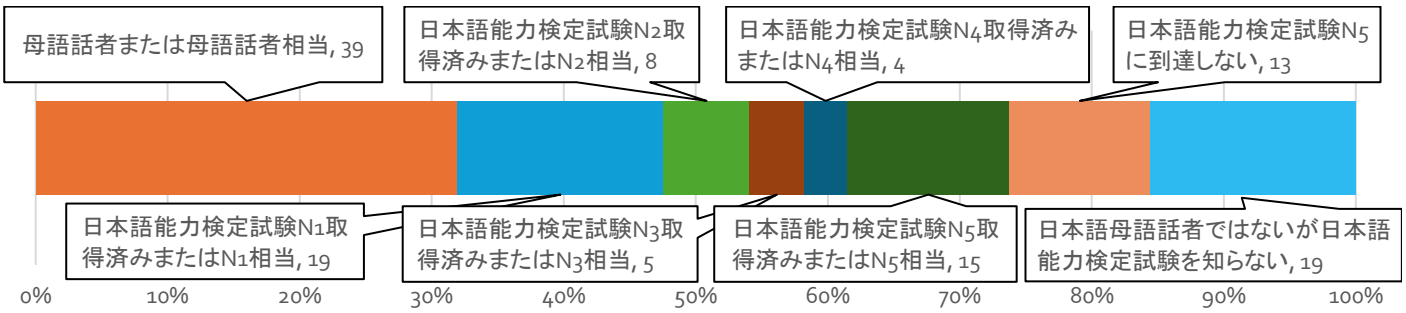
■ 性別を教えてください



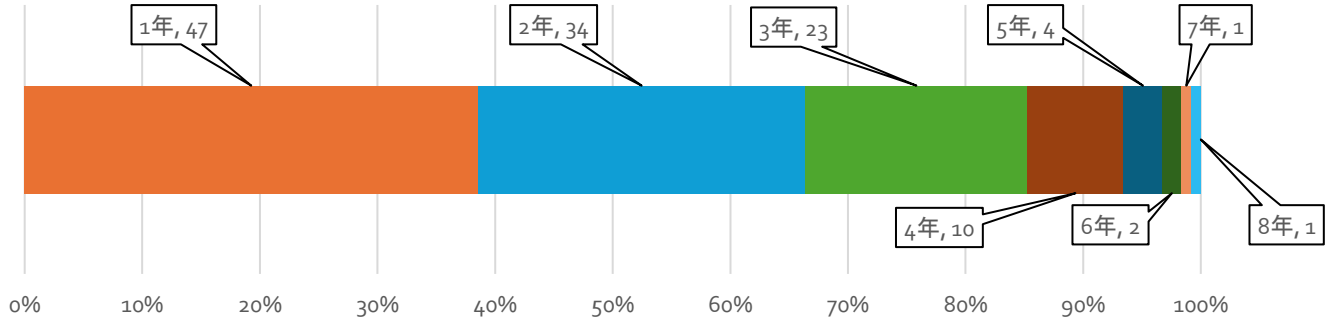
■　国籍を教えてください



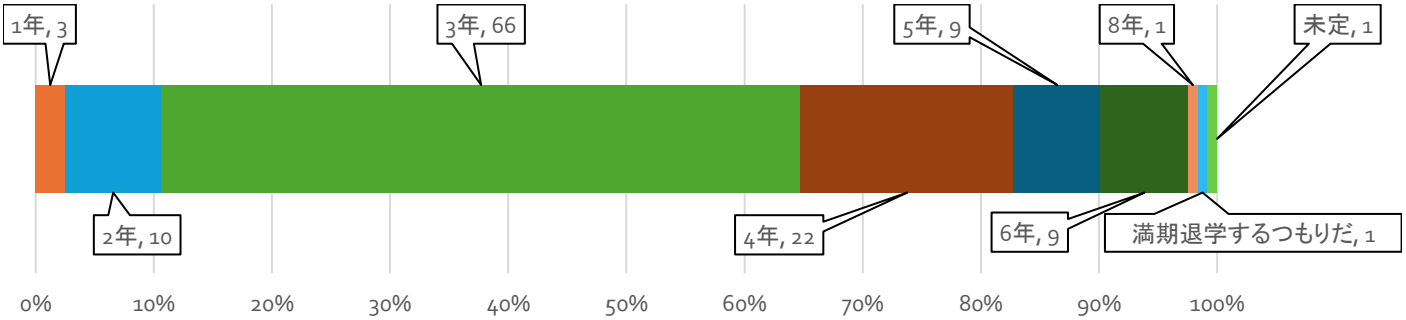
■　日本語の運用能力として最も近いものを選んでください



■　博士課程後期に入学してから今年度は何年目ですか（例：初年度＝1）

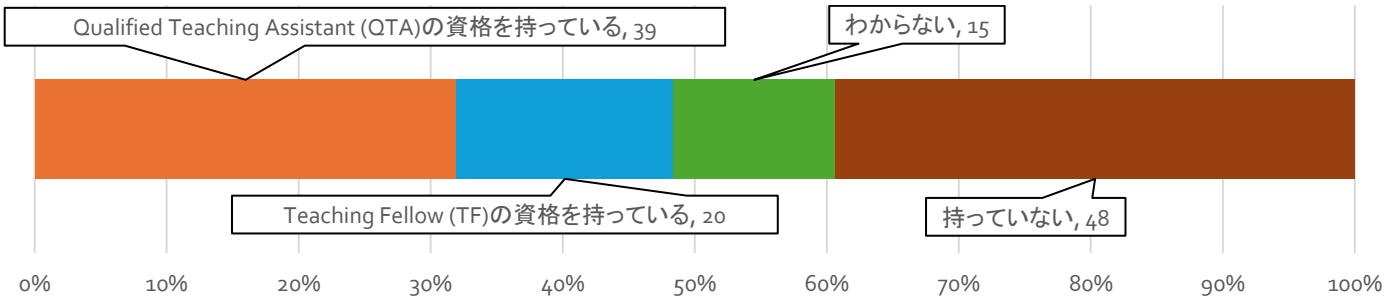


■　入学してから総計在籍何年間（休学期間を除く）で博士課程後期を修了するつもりですか

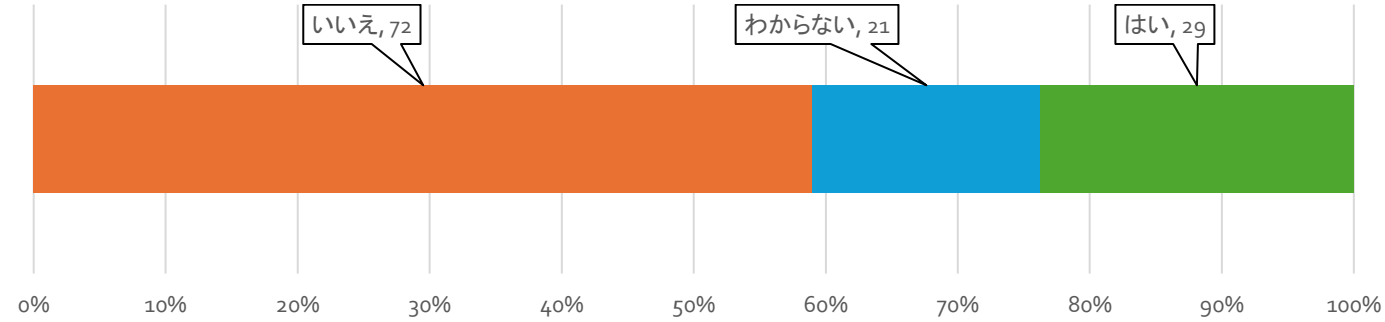


＊質問の趣旨が伝わっていないと思われる回答（1 年）もそのまま記載しています。

■　本学のティーチングアシスタント(TA)の資格を持っていますか



■　本学の「大学教員養成講座」または「大学教員養成講座基礎」を修了しましたか

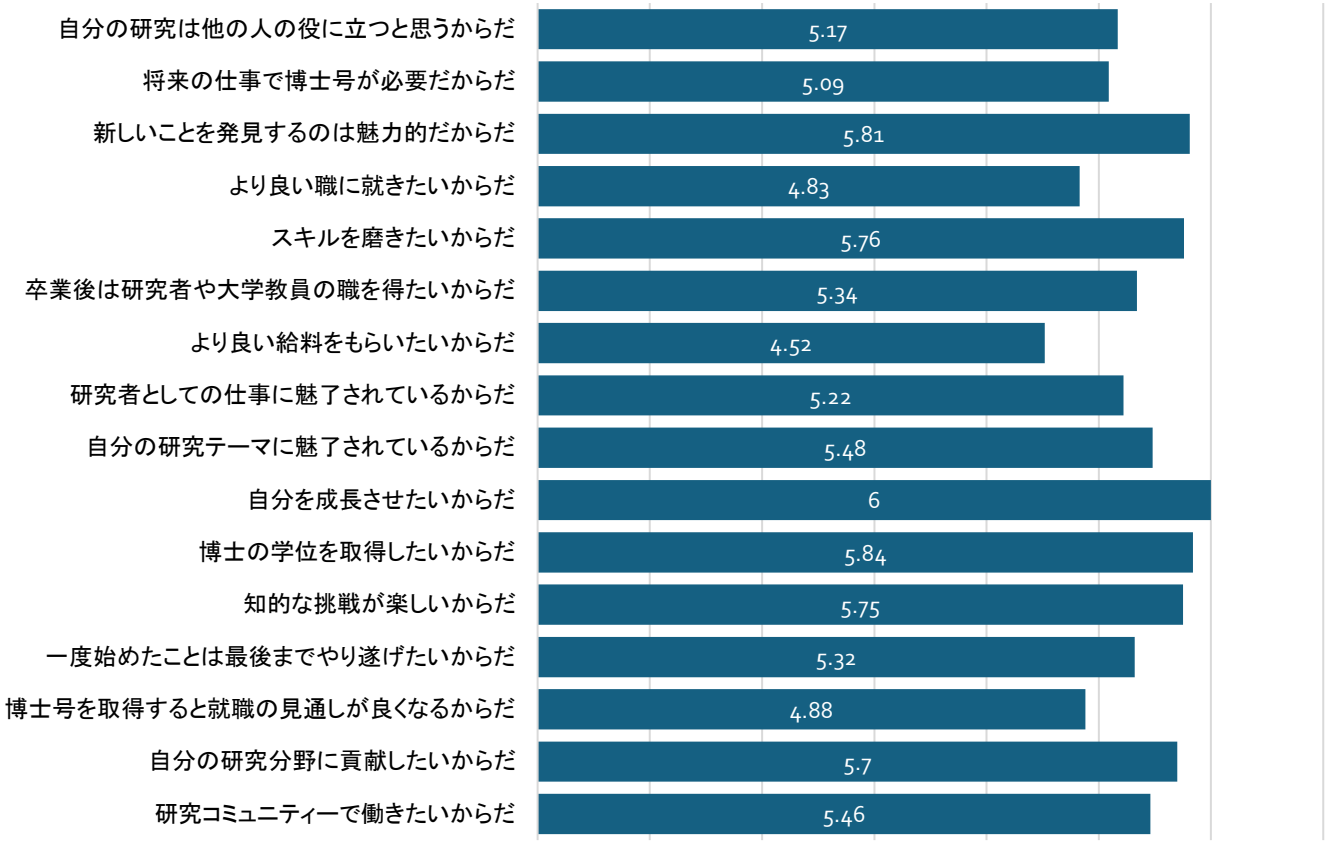


2. 博士課程で学ぶ理由について

博士課程後期で学ぶ学生が、学位取得を目指して学ぶ理由を調査しました（下記結果は平均値）。

博士課程で学ぶ現在の理由についてお聞きします。下の項目について、7 段階の尺度（1 = 全く当てはまらない — 7 = 完全に当てはまる）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。

私が博士課程で学ぶのは、…



博士課程の学生の学位取得動機について、おおむね学生自身の個人的な興味に起因する動機づけが、周囲の環境や条件に基づく動機づけより高いようです。例えば、「自分を成長させたいからだ」(6.00)、「新しいことを発見するのは魅力的だから」(5.81)、「知的な挑戦が楽しいから」(5.75)などの項目において高い値となり、概して、学生は内発的な学問的興味と自己研鑽から学位取得を目指しているようです。

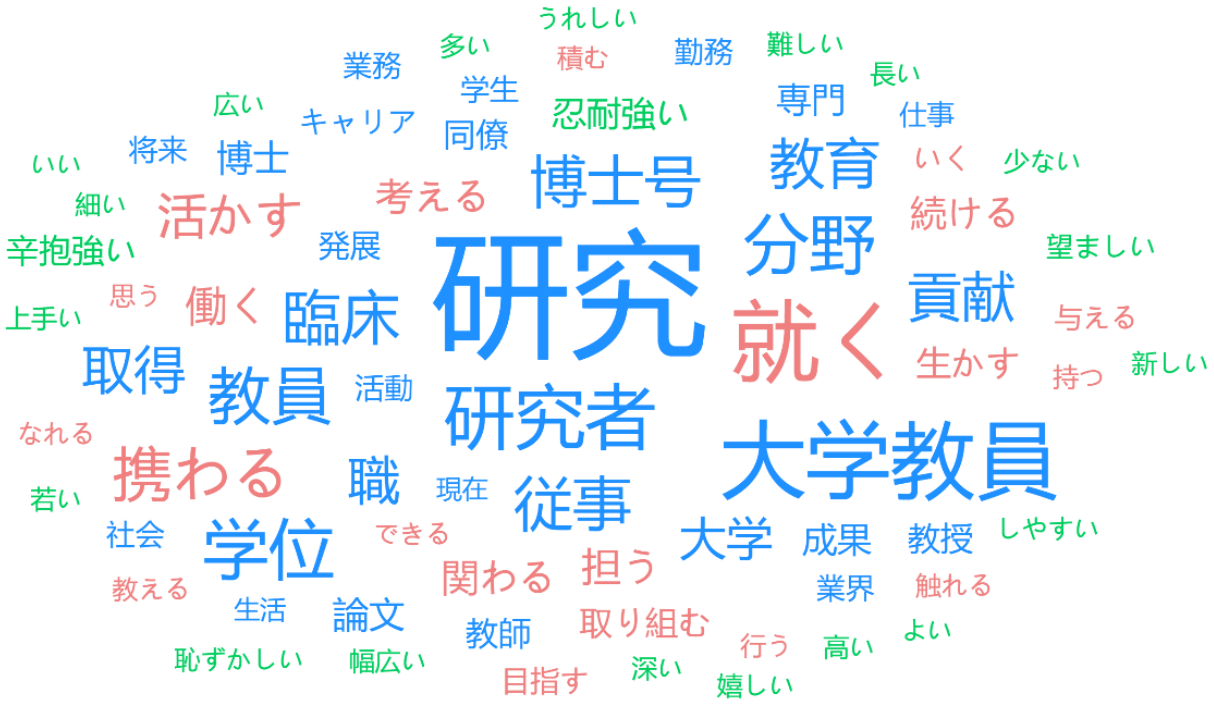
また、学力向上とキャリア開発が同等に重視されており、「自分の研究分野に貢献したいから」(5.70)、「自分の研究テーマに魅了されているから」(5.48)など、学力開発に関する項目が高い値であるとともに、「卒業後は研究者や大学教員の職を得たいから」（5.34）、「将来の仕事で博士号が必要だ」（5.09）など、キャリア形成に関する項目も 5 点以上の高得点でした。これらのことから、将来のキャリア形成も考慮していることが確認できます。一方で、「博士号を取得すると就職の見通しが良くなる」（4.88）、「より良い給料をもらいたいから」（4.52）という項目のスコアが比較的に低いことから、就職の見通しや給与における外的要因の重要性は比較的低いようです。

さらに、「一度始めたことは最後までやり遂げたいから」の設問の得点（5.32）も高く、博士課程修了へ

の強い決意を持っていることがうかがえます。「自分の研究は他の人の役に立つと思うから」という項目のスコアが 5.17 であることからは、自分の研究成果が社会に貢献できることを望んでいることが示されています。

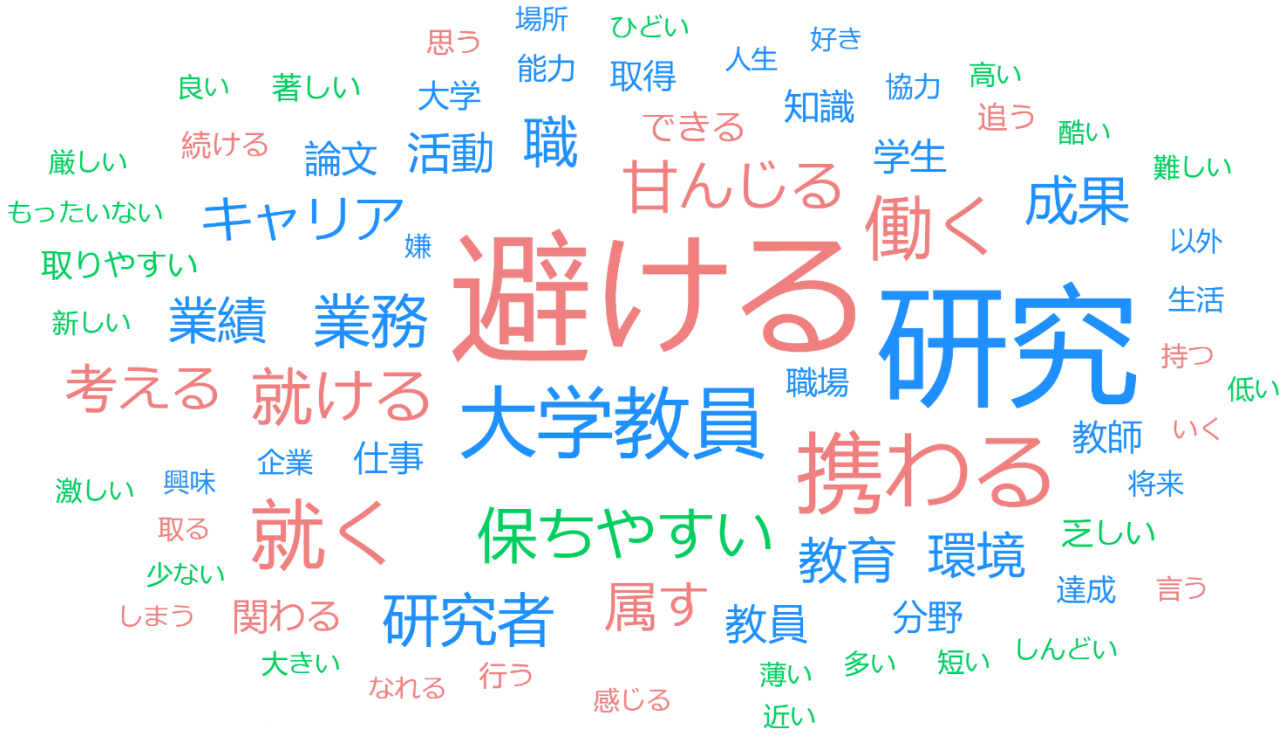
3. 将来のキャリアの見通しについて

将来、専門家としてどのような人物になりたいか、そのイメージや考えについて質問しました（自由記述回答）。学生の全回答は示しませんが、単語の使用頻度から以下のようなキーワードが浮かび上がりました。キーワードの大きさは、その単語が学生たちの回答の中で言及された頻度の高さを表しています（Userlocal により作成）。青文字は名詞、赤文字は動詞、そして、緑文字は形容詞を意味しています。



「研究」「大学教員」「研究者」という語が頻繁に使用され、本学の学生もそのようなキャリアを目指していることが推察できます。多くの人が専門分野の研究に関連する教育や臨床を通じて社会に貢献したいと考えており、自らの研究テーマや成果が適切に評価される環境を求めているのではないかと推測できます。また、「忍耐強い」、「辛抱強い」という形容詞が、忍耐強く職務に携わっていく心構えをうかがい知ることができます。

次に、博士号取得後どのようなキャリア人生は歩みたくないかという質問に対する回答を分析したところ、下図のようなキーワードが浮かび上がりました（Userlocal により作成）。



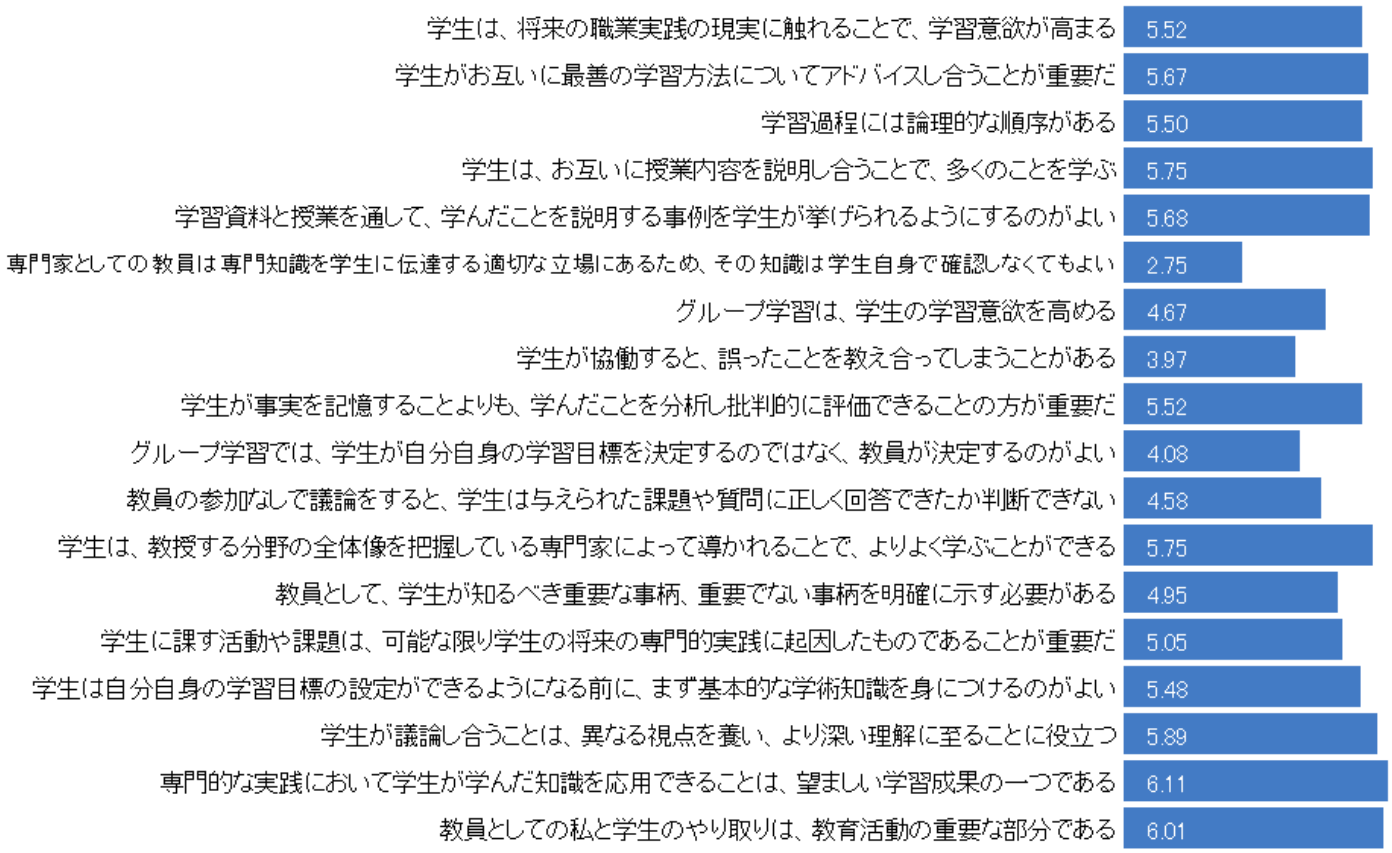
どのようなキャリア人生を避けたいと考えているか、今回の分析から推測することは難しい印象です。個々の回答を見てみたところ、自分の専門性を活かせない単純な仕事、研究活動とかけ離れた環境、社会的インパクトの低い仕事、過重労働を強いられる職場、変化を恐れる保守的な研究環境などは避けたいと考えているようです。回答者は、様々な場面で専門性を発揮し、自らの強みや価値観を重視しつつ、社会の変化に柔軟に対応することを期待しているようです。この回答の内容については、もう少し細かい分析が必要だと考えています。

4. 学部教育への考えについて

博士課程後期の学生が、学部学生の教育活動についてどのような信念を持っているか調査しました（下記回答は平均値）。

ご自身が学部学生に教える状況を想像して、下の項目についてお考えをお聞かせください。項目で使用されている「教員」という語は、あなた自身を指すものとして回答してください。7 段階の尺度（1 = 全く賛成しない ― 7 = 完全に賛成する）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。

■ 教育活動についての信念

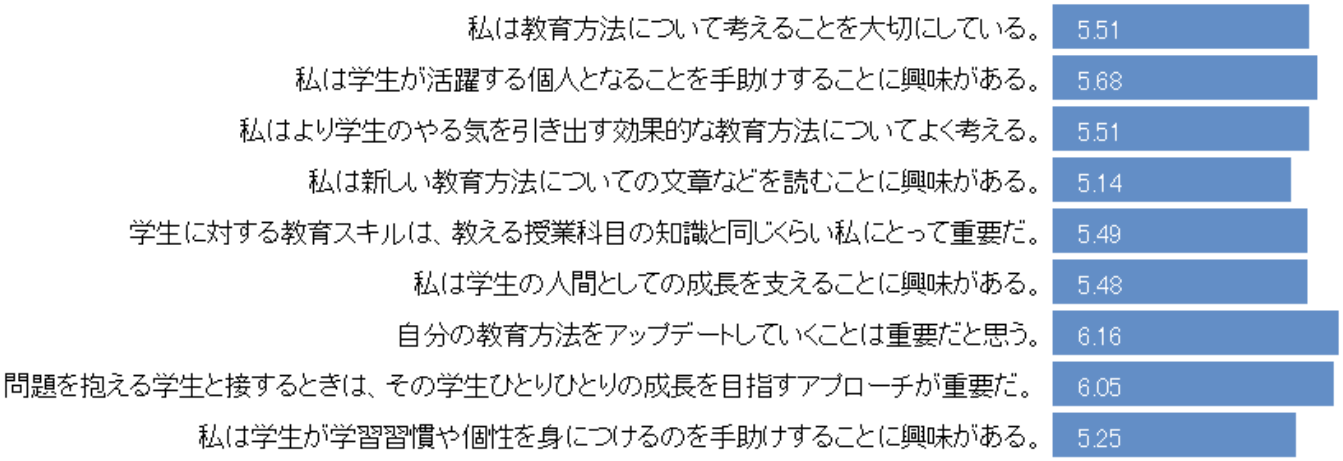


博士課程の学生は、教員の立場から学部教育を考える際、学生が学習内容を実際の現場に応用できるようになることが重要であり（6.11）、学生とのやり取り（6.01）や学生同士の議論（5.89）を通して、主体的な学びと成長を最も重要視しているようです。学生同士の議論や協働が深い理解につながる（5.89）と考えています。また、学生は専門家に導かれることでよりよく学ぶという考えの平均値（5.75）が高く、教師に導かれることが効果的であるというという考えが強いことが伺えます。一方、教員の知識を学生が無批判に受け入れることなく学んでほしいと考えている（2.75）という項目への平均値は低く、教師の知識が提供する知識に対し疑問を持って学ぶべきであると考えている傾向が見られます。このような相反する回答パターンについては詳細な分析が必要です。同じ学生がこのようなやや矛盾する回答をしたのか、学生による回答パターンが異なるのか気になるところです。

■　教育活動に対する興味

博士課程後期の学生が、学部課程の教育活動についてどのような興味を持っているか調査しました（下記回答は平均値）。

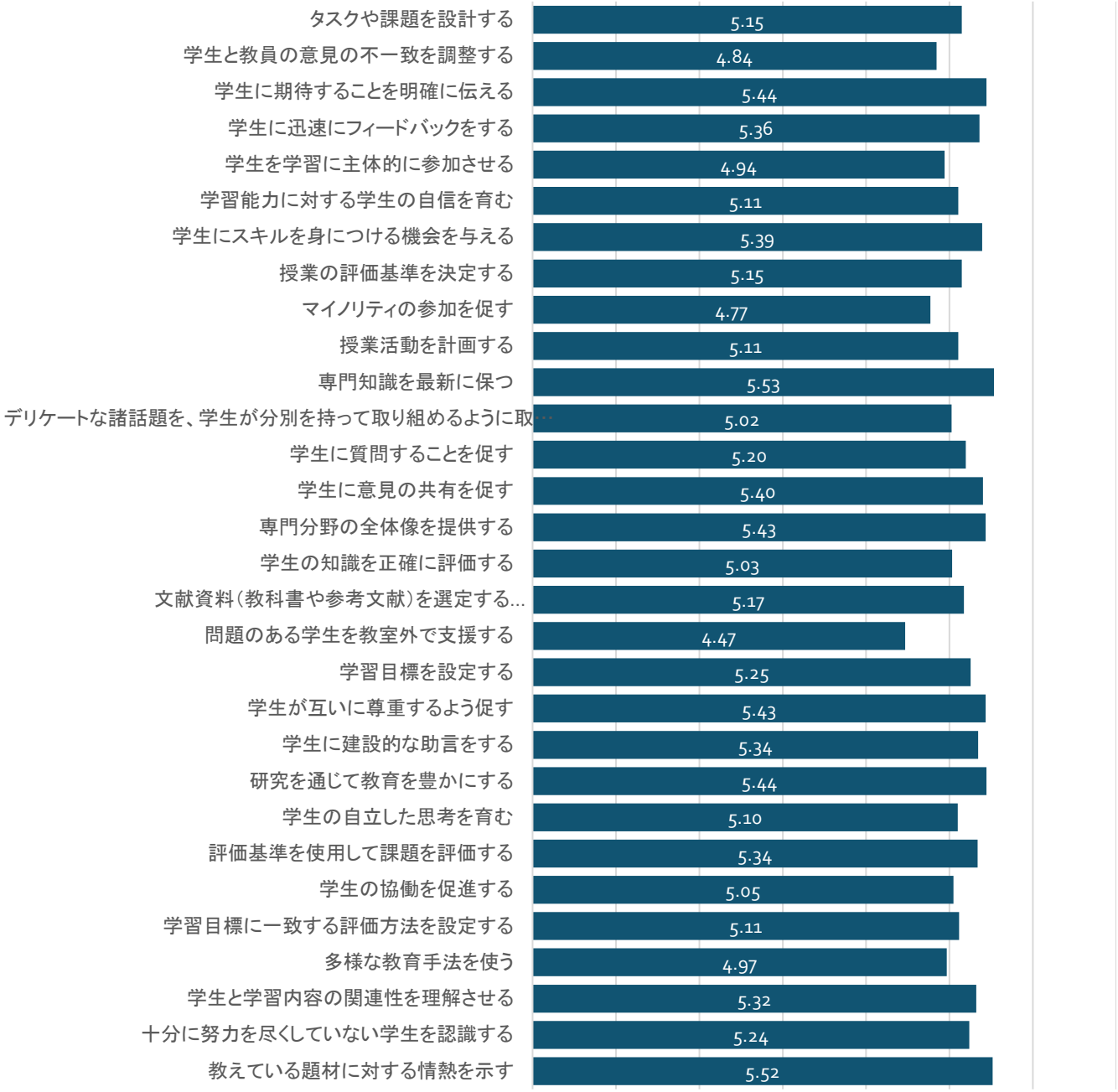
ご自身が学部学生に教える状況を想像して、下の項目についてお考えをお聞かせください。7 段階の尺度（1 = 全く当てはまらない ― 7 = 完全に当てはまる）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。



教育活動に対する興味について、全体的に得点が高く、全体の明確な特徴を把握することは難しそうです。教育方法をアップデートしていくことが重要であるという項目に対する平均値（6.16）が高いことは安心材料です。しかし、教育方法についての文章を読むことに対する興味はそれほど高くなく（5.14）、実際にどのようにアップデートすることを考えているのか気になるところです。

5. 教育の知識と技能について

ご自身が大学の学部課程で教える立場であると想像して、下の項目をどの程度できると思うかをお聞かせください。7 段階の尺度（1 = 全く自信がない — 7 = 完全に自信がある）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。



分野の専門家を目指す博士課程の学生として、専門的な知識をアップデートし（専門知識を最新に保つ: 5.53）、情熱を示す（教えている題材に対する情熱を示す: 5.52）ことについては自信があるようです。しかし、問題を抱える学生を支援したり（問題のある学生を教室外で支援する: 4.47）、意見の違いを調整したりすること（学生と教員の意見の不一致を調整する: 4.84）については、あまり自信がないようです。これらの回答から、博士課程の学生が教師として、学生一人ひとりの問題や個別の意見の相違事例を解決することが難しいだろうと推測していることが読み取れます。また、「マイノリティの学生の参加を促すこと」に対する博士課程の学生の自信も 4.77 と比較的低かったです。このことは、博士課程の学生が、多様

な背景を持つ学生の積極的な参加を促すことに課題を感じていることを示唆しています。

これらの結果から、博士課程の学生は、教員として学生の多様性に対応し、一人ひとりの課題に応じた支援を行うための具体的な方法を学ぶ必要があることがうかがえます。博士課程の学生への教育スキルのトレーニングを通して、大学教育の質を高めるためには、このような点に意識を向ける機会を提供することが重要であるかもしれません。

6. 本調査の質問項目の一覧

A)　博士課程で学ぶ理由について

■　博士課程で学ぶ現在の理由についてお聞きします。下の項目について、7 段階の尺度（1 = 全く当てはまらない — 7 = 完全に当てはまる）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。

私が博士課程で学ぶのは、研究コミュニティーで働きたいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、自分の研究分野に貢献したいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、博士号を取得すると就職の見通しが良くなるからだ。

私が博士課程で学ぶのは、一度始めたことは最後までやり遂げたいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、知的な挑戦が楽しいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、博士の学位を取得したいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、自分を成長させたいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、自分の研究テーマに魅了されているからだ。

私が博士課程で学ぶのは、研究者としての仕事に魅了されているからだ。

私が博士課程で学ぶのは、より良い給料をもらいたいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、卒業後は研究者や大学教員の職を得たいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、スキルを磨きたいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、より良い職に就きたいからだ。

私が博士課程で学ぶのは、新しいことを発見するのは魅力的だからだ。

私が博士課程で学ぶのは、将来の仕事で博士号が必要だからだ。

私が博士課程で学ぶのは、自分の研究は他の人の役に立つと思うからだ。

B)　将来のキャリアの見通しについて

私たちは皆、将来、どのような人物になりたいかというイメージや考えを持っています。博士の学位を取得した後（満期退学を含む）、どのようなキャリア人生を歩みたいと考えているか書いてください。例えば、どのような業務や活動に携わり、どの程度の成果を出し、どのような同僚や業界の中で、どのような人間特性を持ち、どのようなワークライフを送りたいと思っているのか、できる限りでかまいませんので具体的に書いてください。仕事に従事するつもりがない場合は、その旨を書いてください。

私たちは皆、将来、ああなりたくないとか、こうなったら嫌だといったイメージも持っています。博士の学位を取得した後（満期退学を含む）、どのようなキャリア人生は歩みたくないと考えているか書いてください。例えば、携わりたくないと考える業務や活動、満足できない達成度や成果の程度、自分が所属したくないと考える同僚や業界、備えたくないと思う人間特性、避けたいと思うワークライフを、できる限りでかまいませんので具体的に書いてください。仕事に従事するつもりがない場合は、その旨を書いてください。

C) 学部教育への考えについて

■ ご自身が学部学生に教える状況を想像して、下の項目についてお考えをお聞かせください。項目で使用されている「教員」という語は、あなた自身を指すものとして回答してください。7 段階の尺度（1 = 全く賛成しない — 7 = 完全に賛成する）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。

学生は、将来の職業実践の現実に触れることで、学習意欲が高まる。

学生がお互いに最善の学習方法についてアドバイスし合うことが重要だ。

学習過程には論理的な順序がある。

学生は、お互いに授業内容を説明し合うことで、多くのことを学ぶ。

学習資料と授業を通して、学んだことを説明する事例を学生が挙げられるようにするのがよい。

専門家としての教員は専門知識を学生に伝達する適切な立場にあるため、その知識は学生自身で確認しなくてもよい。

グループ学習は、学生の学習意欲を高める。

学生が協働すると、誤ったことを教え合ってしまうことがある。

学生が事実を記憶することよりも、学んだことを分析し批判的に評価できることの方が重要だ。

グループ学習では、学生が自分自身の学習目標を決定するのではなく、教員が決定するのがよい。

教員の参加なしで議論をすると、学生は与えられた課題や質問に正しく回答できたか判断できない。

学生は、教授する分野の全体像を把握している専門家によって導かれることで、よりよく学ぶことができる。

教員として、学生が知るべき重要な事柄、重要でない事柄を明確に示す必要がある。

学生に課す活動や課題は、可能な限り学生の将来の専門的実践に起因したものであることが重要だ。

学生は自分自身の学習目標の設定ができるようになる前に、まず基本的な学術知識を身につけるのがよい。

学生が議論し合うことは、異なる視点を養い、より深い理解に至ることに役立つ。

専門的な実践において学生が学んだ知識を応用できることは、望ましい学習成果の一つである。

教員としての私と学生のやり取りは、教育活動の重要な部分である。

■ ご自身が学部学生に教える状況を想像して、下の項目についてお考えをお聞かせください。7 段階の尺度（1 = 全く当てはまらない — 7 = 完全に当てはまる）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。

私は教育方法について考えることを大切にしている。

私は学生が活躍する個人となることを手助けすることに興味がある。

私はより学生のやる気を引き出す効果的な教育方法についてよく考える。

私は新しい教育方法についての文章などを読むことに興味がある。

学生に対する教育スキルは、教える授業科目の知識と同じくらい私にとって重要だ。

私は学生の人間としての成長を支えることに興味がある。

自分の教育方法をアップデートしていくことは重要だと思う。

問題を抱える学生と接するときは、その学生ひとりひとりの成長を目指すアプローチが重要だ。

私は学生が学習習慣や個性を身につけるのを手助けすることに興味がある。

D) 教育の知識と技能について

- **ご自身が大学の学部課程で教える立場であると想像して、下の項目をどの程度できると思うかをお聞かせください。7 段階の尺度（1 = 全く自信がない — 7 = 完全に自信がある）を用いて、考えすぎず直感的にお考えを教えてください。**

タスクや課題を設計する

学生と教員の意見の不一致を調整する

学生に期待することを明確に伝える

学生に迅速にフィードバックをする

学生を学習に主体的に参加させる

学習能力に対する学生の自信を育む

学生にスキルを身につける機会を与える

授業の評価基準を決定する

マイノリティの参加を促す

授業活動を計画する

専門知識を最新に保つ

デリケートな諸話題を、学生が分別を持って取り組めるように取り扱う

学生に質問することを促す

学生に意見の共有を促す

専門分野の全体像を提供する

学生の知識を正確に評価する

文献資料（教科書や参考文献）を選定する

問題のある学生を教室外で支援する

学習目標を設定する

学生が互いに尊重するよう促す

学生に建設的な助言をする

研究を通じて教育を豊かにする

学生の自立した思考を育む

評価基準を使用して課題を評価する

学生の協働を促進する

学習目標に一致する評価方法を設定する

多様な教育手法を使う

学生と学習内容の関連性を理解させる

十分に努力を尽くしていない学生を認識する

教えている題材に対する情熱を示す

E)　回答者ご自身について教えてください

これら項目は回答協力者の分布を確認し、詳細な分析のために用いられます。仮に回答者分布が本学全体の分布と大きく異なる場合、特定の属性に絞った協力依頼が再度なされることがあります。

■　**所属する研究科を選択してください**

■　**最も近い専門分野を選択してください**

■　**性別を教えてください**

女性

男性

回答しない

その他

■　**国籍を教えてください**

日本国籍

中国国籍

インドネシア国籍

ベトナム国籍

バングラディシュ国籍

韓国国籍

その他（二重国籍含む）

■　**上の質問で「その他（二重国籍含む）」を選んだ方にお伺いします。差し支えなければご自身の国籍を教えてください。**

■　**日本語の運用能力として最も近いものを選んでください**

母語話者または母語話者相当

日本語能力検定試験 N1 取得済みまたは N1 相当

日本語能力検定試験 N2 取得済みまたは N2 相当

日本語能力検定試験 N3 取得済みまたは N3 相当

日本語能力検定試験 N4 取得済みまたは N4 相当

日本語能力検定試験 N5 取得済みまたは N5 相当

日本語能力検定試験 N5 に到達しない

日本語母語話者ではないが日本語能力検定試験を知らない

■ 博士課程後期に入学してから今年度は何年目ですか（例：初年度 ＝ 1）

■ 入学してから総計在籍何年間（休学期間を除く）で博士課程後期を修了するつもりですか

2 年　3 年　4 年　5 年　6 年　7 年　満期退学するつもりだ

■ 本学の「大学教員養成講座」または「大学教員養成講座基礎」を修了しましたか

はい　いいえ　わからない

■ 本学のティーチングアシスタント(TA)の資格を持っていますか

Teaching Fellow (TF)の資格を持っている

Qualified Teaching Assistant (QTA)の資格を持っている

持っていない

わからない

■ これまでに大学の授業を何学期間、主担当として（TA としてではありません）担当した経験をお持ちか教えてください（1 年は 2 学期制とする）。
同時に担当する授業数や授業の種類（講義、演習など）は問いません。